

トリアという街について

岸上泰斗

一回目の報告はトリアについて書きたいと思います。トリア(Trier)は、ドイツの西、ラインラント・プファルツ州に位置する街です。モーゼル川沿いに位置し、モーゼルワインの産地であるため、この地域のスーパーマーケットではビールよりもワインの方が種類が多く売られています。地理的にはルクセンブルクに近く、一時間程度で行くことができます。またフランスにも近く、一、二時間電車で揺られるとフランスの国境を超えることができます。この街はドイツの中でも最も古く 2000 年の歴史があります。ポルタ・ニグラ(Porta Nigra)は 2 世紀に建てられた門で、今でもトリアの顔として住民に親しまれています。ポルタ・ニグラとは、ラテン語で「黒い門」を意味しており、その名の通り見た目が黒いです。この門は近くで見ると迫力があり、トリアのシンボルとして街の住民に親しまれています。また、東方の三賢者を祀っているトリア大聖堂(Cathedral)はドイツ最古の大聖堂とされています。特に内部は、様々な石像やステンドグラスなどの装飾が施されており一見の価値があります。これらのほかにも聖母教会やモーゼル川の橋などを含めてドイツの世界遺産として登録されています。そのため、古い町並みが広がっており、とてもきれいです。また、町の中央に行くと、日本人の観光客もよく見かけます。

次に、トリアの名産であるモーゼルワインについて少し話したいと思います。トリアなどモーゼル川の周辺には山の傾斜に白ブドウ畑が広がっています。ここからとれる白ブドウはそのまま食卓に並ぶのではなく、ワインとして食卓に並ぶことになります。そして、モーゼル川一帯で作られるワインはモーゼルワインと呼ばれ、トリアの特産品となっています。

最後に、私が留学しているトリア大学について書きたいと思います。トリア大学はトリアの街の中心からバスで 15 分程度の距離にあります。学生数は 1 万 4 千人程度と島根大学に比べると規模が大きく、その中には様々な学部が存在しており、医学部以外であればほとんどのことを勉強できます。英語学科を除くとほとんどの授業はドイツ語で行われています。ゼミやテストの時であれば英語も可能なようですが、基本的にドイツ語を聞けるレベルが必要になります。専門にもよりますが、B1 が最低でしょう。私も現在 A1 で政治や法律の授業を取っていますが、ドイツ語を聞くのは非常に難しいです。ドイツでの単位取得は大変で、出席も 3 回までしか休むことが出来ませんし、かなり集中して勉強していないとテストに合格できません。そのため、ドイツの学生は勉強熱心です。トリア大学の図書館は、平日は夜の 12 時まで開いており、遅くまで残っている学生もいます。学生証を持っていれば、貸し出しも可能です。また、学生たちは学業以外にも熱心です。大学には様々な学生団体が存在しています。例えば、日本学学生会は日本学科の生徒たちが自主的に行っているもので、自分たちで様々なイベントを企画し、パーティーなどを催しています。他にも、サークルはないですが、20 ユーロぐらい払えば半年利用でき、合気道やヨガなどを習えるらしいです。ドイツの大学は、学生への支援が厚く日本に比べるとかなり安く生活できるでしょう。例えば、トリアの学生が持つ学生証があれば同じ州の交通機関はタダです。加えて、授業料が安

いのも有名ですね。また、私は大学の寮に住んでいますが、月 300 ユーロです。家具があらかじめあり、光熱費や月 30GB のインターネットも含まれています。しかし、洗濯は一回 2 ユーロ必要です。また、部屋によって変わりますが入寮したときにある備品次第で買い足さないといけないので、最初は少しまとまったお金が必要になります。あと、外食は日本に比べると高いと思うので自炊した方が良いです。